

伊勢湾環境保全調査結果（1ヵ年）
（平成30年1月～12月）

第四管区海上保安本部
海洋情報部

1. 目的

第四管区海上保安本部と中部地方整備局は関係省庁・地方公共団体とともに「伊勢湾再生推進会議」を立ち上げた。本調査は伊勢湾再生へ向けた海域環境のモニタリングの一環として環境保全調査を実施し、水温、塩分等の情報を提供することを目的とする。

2. 調査実施概要

(1) 使用した船舶

測量船「いせしお」 (27 トン)

(2) 調査区域

付図に示すとおり

(3) 調査項目

- ・ 水温、塩分、溶存酸素量 (以下「DO」という。)

測定機器：JFE アドバンテック RINKO-Profiler ASTD153

- ・ 流向、流速

測定機器：古野電気(株)製 CI-60G

(4) 調査実施日

調査年月日		観測点数	欠測点数
平成 30 年	1 月 22 日	12	11
	2 月 19 日、20 日	22	1
	3 月 12 日、13 日	22	1
	4 月 19 日、20 日	22	1
	5 月 21 日、22 日	22	1
	6 月 25 日、26 日	23	0
	7 月 25 日、26 日	17	6
	8 月 27 日、28 日	23	0
	9 月 19 日、20 日	22	1
	10 月 10 日、11 日	20	3
	11 月 1 日、2 日	22	1

(12 月は実施なし)

3. 調査結果（調査結果の詳細はホームページに掲載）

伊勢湾の水温は、1月～3月は湾全域でほぼ「平年並み」であったものの、5月を除く4月～12月においては各層で「やや高い」～「甚だ高い」結果となった。

湾内底層の貧酸素水塊は、5月から湾内全域で発生しており発生時期は「平年並み」。湾口においては、7月に一時的に貧酸素水塊が見られるも、それ以降、広がりは見られず、湾内においては湾央～湾奥に貧酸素水塊が広がった。例年、湾内では10月もしくは11月には貧酸素水塊は解消されるが、今年はいせしおドックのため、11月の調査を1日、2日に実施及び12月の調査実施なしにしたことにより、調査による貧酸素水塊の解消は確認できなかった。

各月の調査結果（表1及び図1-1～図1-3）

1月

水温は湾奥～湾央（湾口欠測）でほぼ「平年並み」で、水温の逆転現象がみられた。塩分は表層では30PSU～33PSU台であった。底層のD0は湾内の最も低い値で6mg/l台であった。

2月

水温は湾内全域でほぼ「平年並み」。塩分は表層で31PSU～33PSU台であった。底層のD0は湾内の最も低い値で8mg/l台であった。

3月

水温は湾内全域の表層で平年より「やや低い」～「低い」。塩分は湾奥で25PSU台の低塩分水がみられた。底層のD0は湾内の最も低い値で7mg/l台であった。

4月

水温は湾内全域の表層・中層で平年より「やや高い」～「高い」となり、水温成層が形成されていた。塩分は湾奥の表層では0PSU未満の低塩分水がみられた。底層のD0は湾内の最も低い値で3mg/l台であった。

5月

水温は湾奥～湾央の表層で平年より「やや低い」。湾奥の表層では24PSU台の低塩分水がみられた。底層では貧酸素水塊が湾央を中心に広がり、湾内のD0の最も低い値で1mg/l台であった。

6月

水温は湾内全域の表層で平年より「やや高い」から「高い」。湾奥の表層では23PSU台の低塩分水がみられた。湾奥～湾央の底層では貧酸素水塊広がっており、湾内のD0の最も低い値で0mg/l台であった。

7月

水温は湾内全域の各層で平年よりほぼ「高い」状態で、湾口の表層では平年より

「甚だ高い」。塩分は湾奥の表層で 30PSU 未満の低塩分水がみられた。貧酸素水塊は湾内の水深 10m 以深で拡大し、湾内の D0 の最も低い値で 0mg/l 台であった。

8月

水温は湾内全域の各層で平年よりほぼ「高い」～「甚だ高い」状態で、特に底層においてはかなり高い状態であった。塩分は湾奥～湾央の表層で 25PSU 未満の低塩分水がみられた。貧酸素水塊は例年では拡大する時期であるが、台風の影響により湾内の海水が攪拌され、先月より広がりは見られず、湾内の D0 の最も低い値で 0mg/l 台であった。

9月

水温は湾内全域の各層で平年よりほぼ「やや高い」～「甚だ高い」状態で、特に底層においてはかなり高い状態であった。湾内の表層と底層の水温差が小さく水温成層が弱まっていた。塩分は湾奥～湾央の表層で、先月よりも 25PSU 未満の低塩分水が広がっていた。貧酸素水塊は先月より拡大され、湾内の D0 の最も低い値で 0mg/l 台であった。

10月

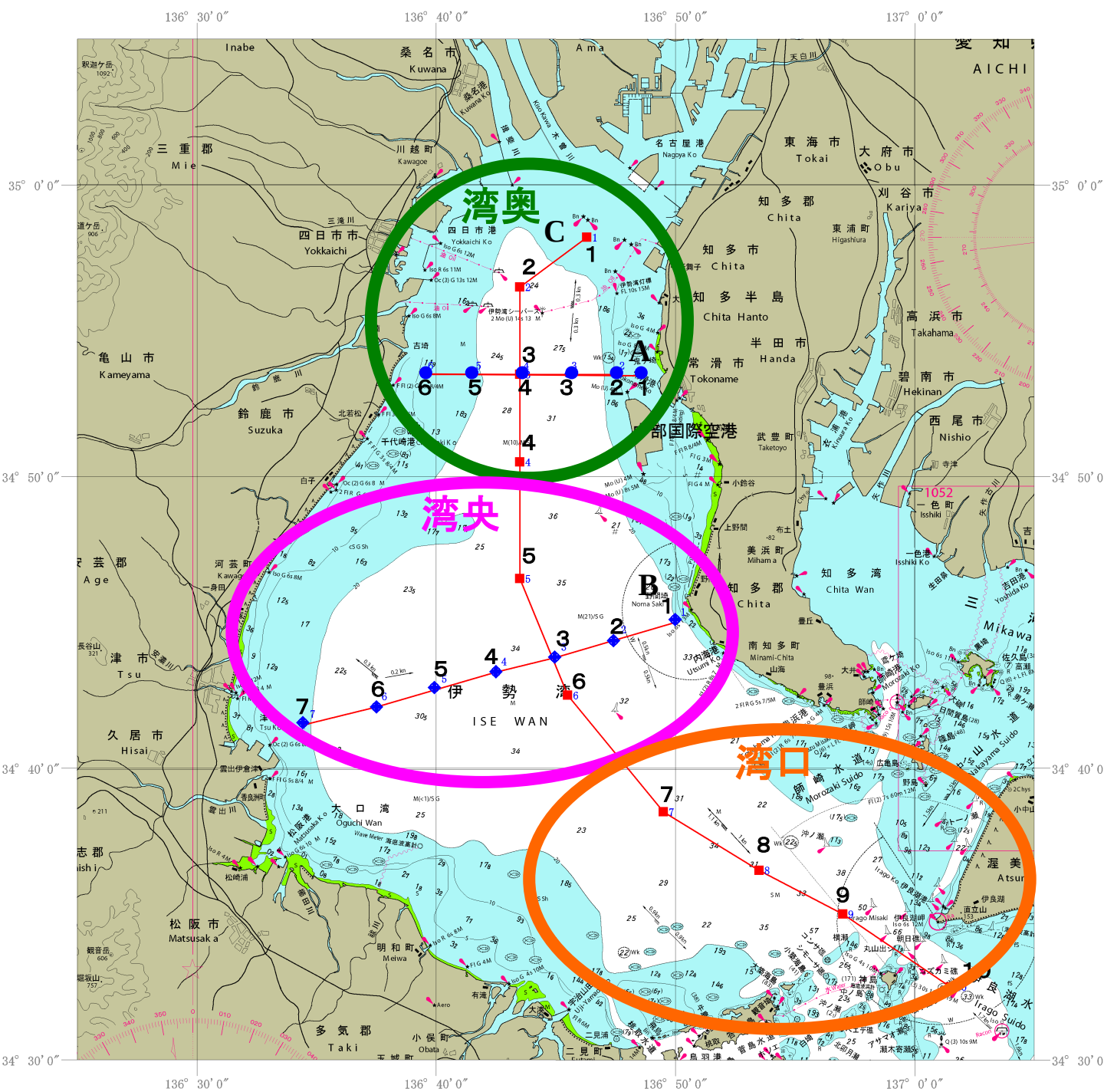
水温は、湾内全域の各層で平年より「高い」～「かなり高い」。湾内の表層と底層の水温差は小さいままとなっていた。塩分は湾奥～湾央の表層で、25PSU 以下の低塩分水が見られた。貧酸素水塊の拡大は確認されず、特に湾奥では平年より「かなり高い」状態であった。なお、湾内の D0 の最も低い値で 1mg/l 台であった。

11月

水温は湾奥～湾央の各層で平年より「甚だ高い」で、湾口の各層で平年より「かなり高い」。塩分は 28～33PSU 台であった。底層の D0 は湾内の最も低い値で 0mg/l 台で湾内の貧酸素水塊が存在していた。

※「湾奥」、「湾央」、「湾口」の区分については付図のとおり

伊勢湾環境保全調査測点図



湾奥～湾央～湾口の区分について

湾奥	A1～A6、C1～C4
湾央	B1～B7、C5～C6
湾口	C7～C10

表1 各海域毎の平均水温、塩分、溶存酸素量

[illegible]

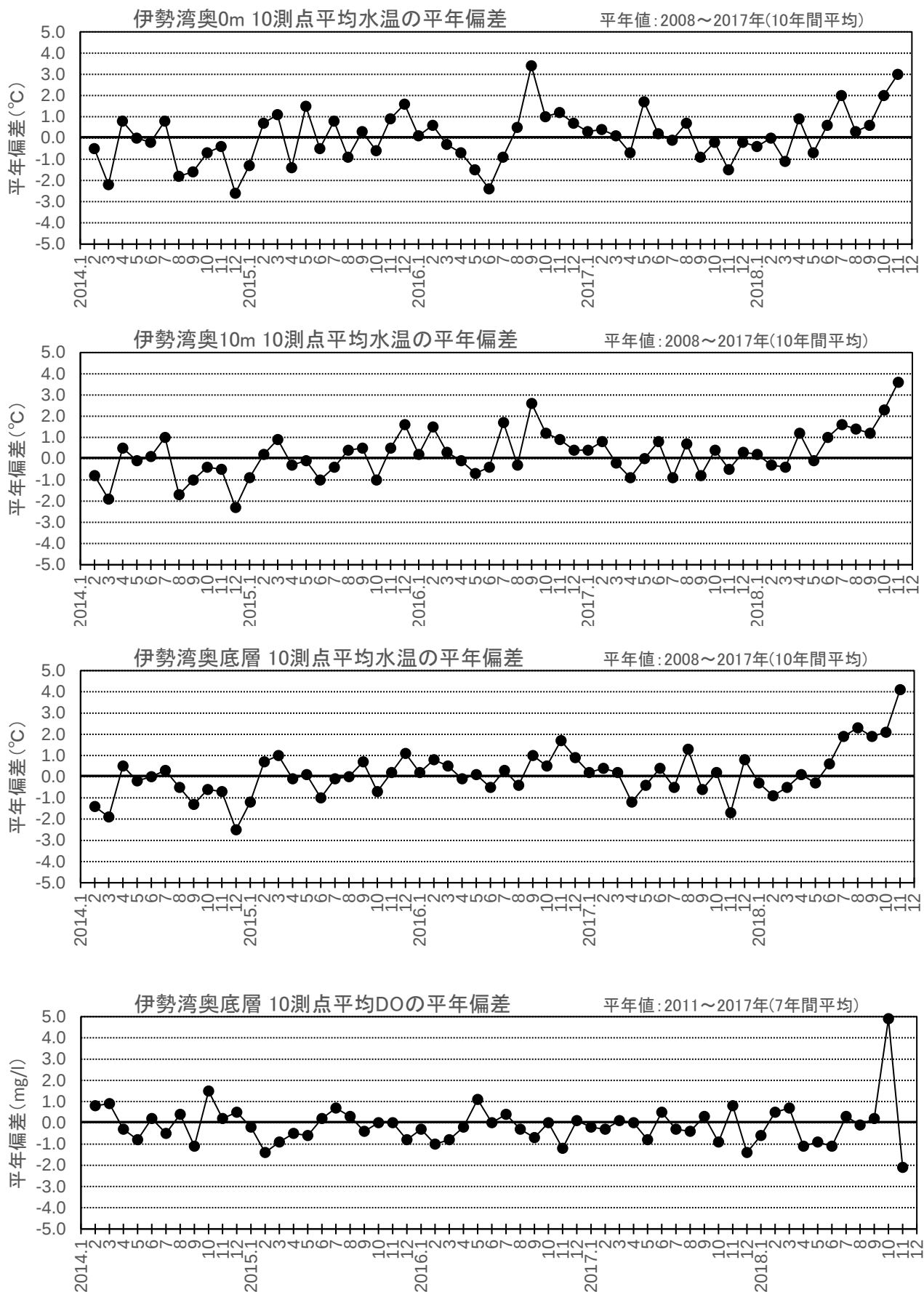


図1-1 伊勢湾奥10測点の平均水温の平年差及び平均DOの平年差

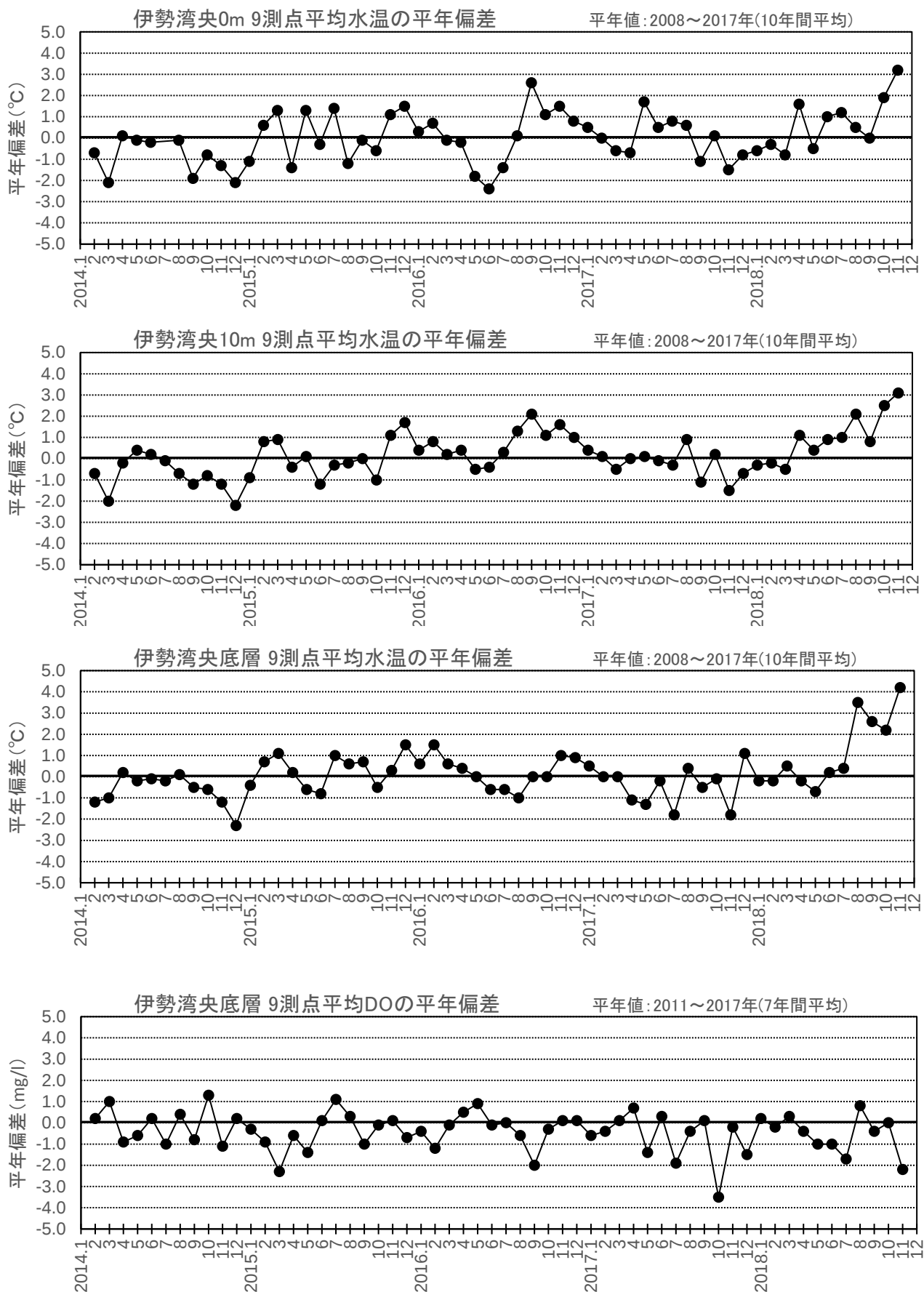


図1-2 伊勢湾中央9測点の平均水温の平年差及び平均DOの平年差

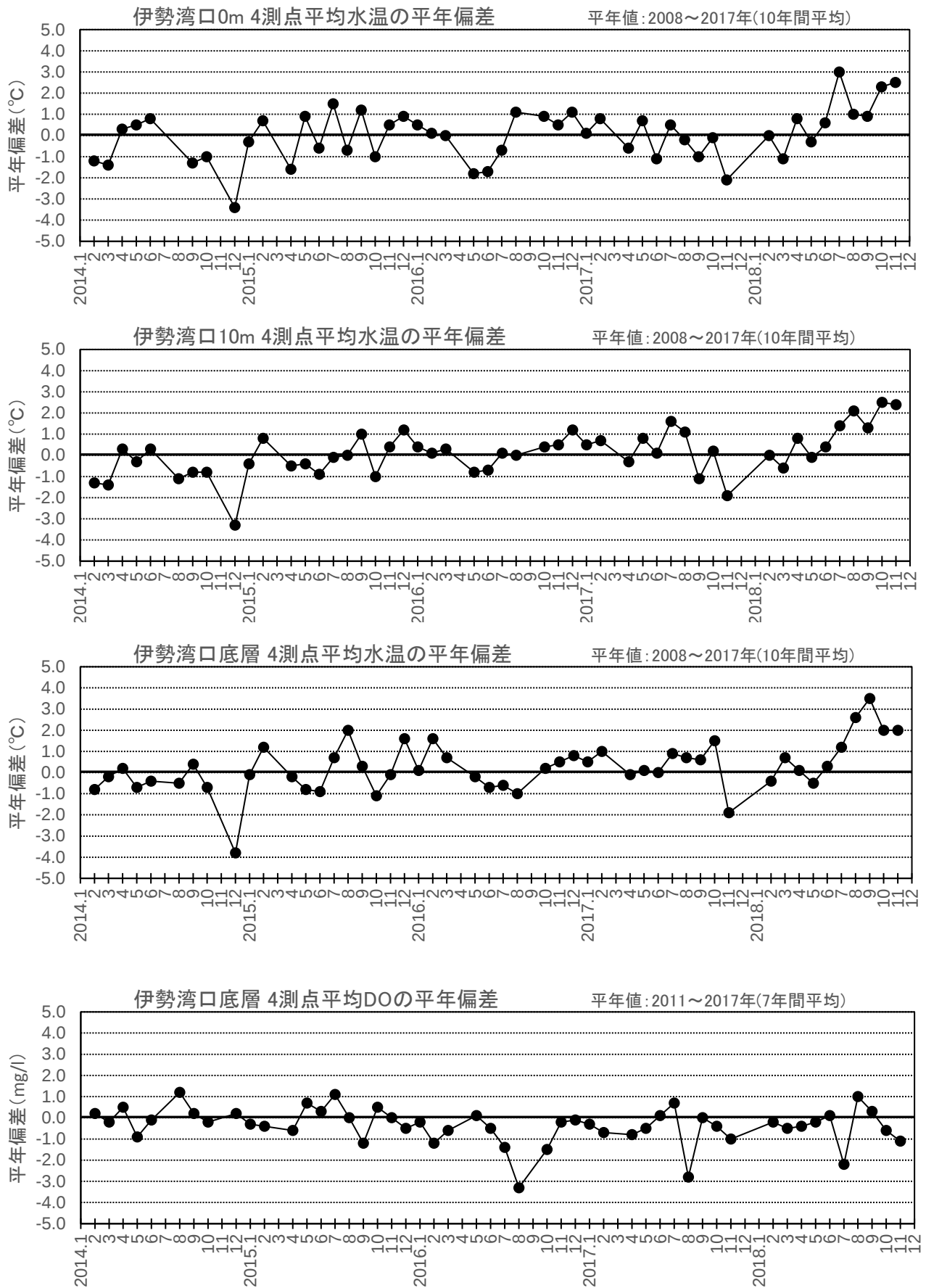


図1-3 伊勢湾口4測点の平均水温の平年差及び平均DOの平年差